

北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四半期 >

北見商工會議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和3年1月15日

(2) 調査対象期間 令和2年10月～12月期実績および令和3年1月～3月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

| 業種 | 企業数 | 対象企業数 | 回答企業数 | 回答率 |
|-------|------|-------|-------|-------|
| 製造業 | 30社 | 26社 | 26社 | 86.6% |
| 建設業 | 30社 | 26社 | 26社 | 86.6% |
| 卸売業 | 30社 | 27社 | 27社 | 90.0% |
| 小売業 | 35社 | 26社 | 26社 | 74.2% |
| サービス業 | 25社 | 15社 | 15社 | 60.0% |
| 合計 | 150社 | 120社 | 120社 | 80.0% |

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概況

《全体の動き》

令和2年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」17.5%、「悪化企業」50.0%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△32.5となっています。

前年同期(△25.0)との比較では7.5ポイントの悪化傾向を示しました。また、前期調査<令和2年度第Ⅱ四半期>と比較してみると前期△49.1→本期△32.5と16.6ポイントの好転傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△65.4、建設業D・I値11.5、卸売業D・I値△37.1、小売業D・I値△26.9、サービス業D・I値△53.4となっており、前年同期調査と比較すると、建設業で35.3ポイント、小売業で6.5ポイントの好転傾向が見られましたが、製造業で48.1ポイント、サービス業で40.1ポイント、卸売業で3.8ポイントの悪化となっており、予断を許さない状況が続いています。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」10.8%、「悪化企業」60.8%でD・I値△50.0と、前年同期見通し(△36.1)に比べ13.9ポイントの大幅な悪化となっており、厳しい状況が続く来期見通しとなっています。

《業種別の動き》

1) 製造業 生産高 前年比で「増加企業」11.5%、「減少企業」57.7%、D・I値△46.2と前年同期(△17.4)に比べ28.8ポイントの大幅な悪化となりました。

採算 前年比で「好転企業」3.8%、「悪化企業」69.2%、D・I値△65.4と前年同期(△13.0)に比べ52.4ポイントの大幅な悪化となりました。

来期見通し 業況D・I値△65.4、生産高D・I値△57.7、資金繰りD・I値△50.0と、前年同期に比べ、すべてのD・I値で大幅な悪化を示しました。

2) 建設業 完成工事高 前年比で「増加企業」30.8%、「減少企業」15.4%、D・I値15.4と、前年同期(△28.0)に比べ43.4ポイントの大幅な好転となりました。

採算 前年比で「好転企業」30.8%、「悪化企業」11.5%、D・I値19.3と、前年同期(△28.0)に比べ47.3ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△34.6、完成工事高D・I値△27.0、資金繰りD・I値△11.6と前年同期に比べ、すべてのD・I値で好転傾向を示しました。

3) 卸 売 業 **売 上 高** 前年比で「増加企業」22.2%、「減少企業」48.1%、D・I値△25.9と前年同期(△25.1)に比べ0.8ポイントの悪化となりました。

採 算 前年比で「好転企業」18.5%、「悪化企業」48.1%、D・I値△29.6と前年同期(△29.2)に比べ0.4ポイントの悪化を示しました。

来期見通し 業況D・I値△59.3、売上高D・I値△55.6、資金繰りD・I値△33.3と前年同期に比べ、すべてのD・I値で大幅な悪化を示す結果となりました。

4) 小 売 業 **売 上 高** 前年比で「増加企業」30.8%「減少企業」53.8%、D・I値△23.0と前年同期(△23.9)に比べ0.9ポイントの好転となりました。

採 算 前年比で「好転企業」23.1%「悪化企業」46.2%、D・I値△23.1と前年同期(△33.3)から10.2ポイントの好転を示しました。

来期見通し 業況D・I値△27.0、売上高D・I値△19.2、資金繰りD・I値△23.1と前年同期に比べ、すべてのD・I値で悪化傾向を示しました。

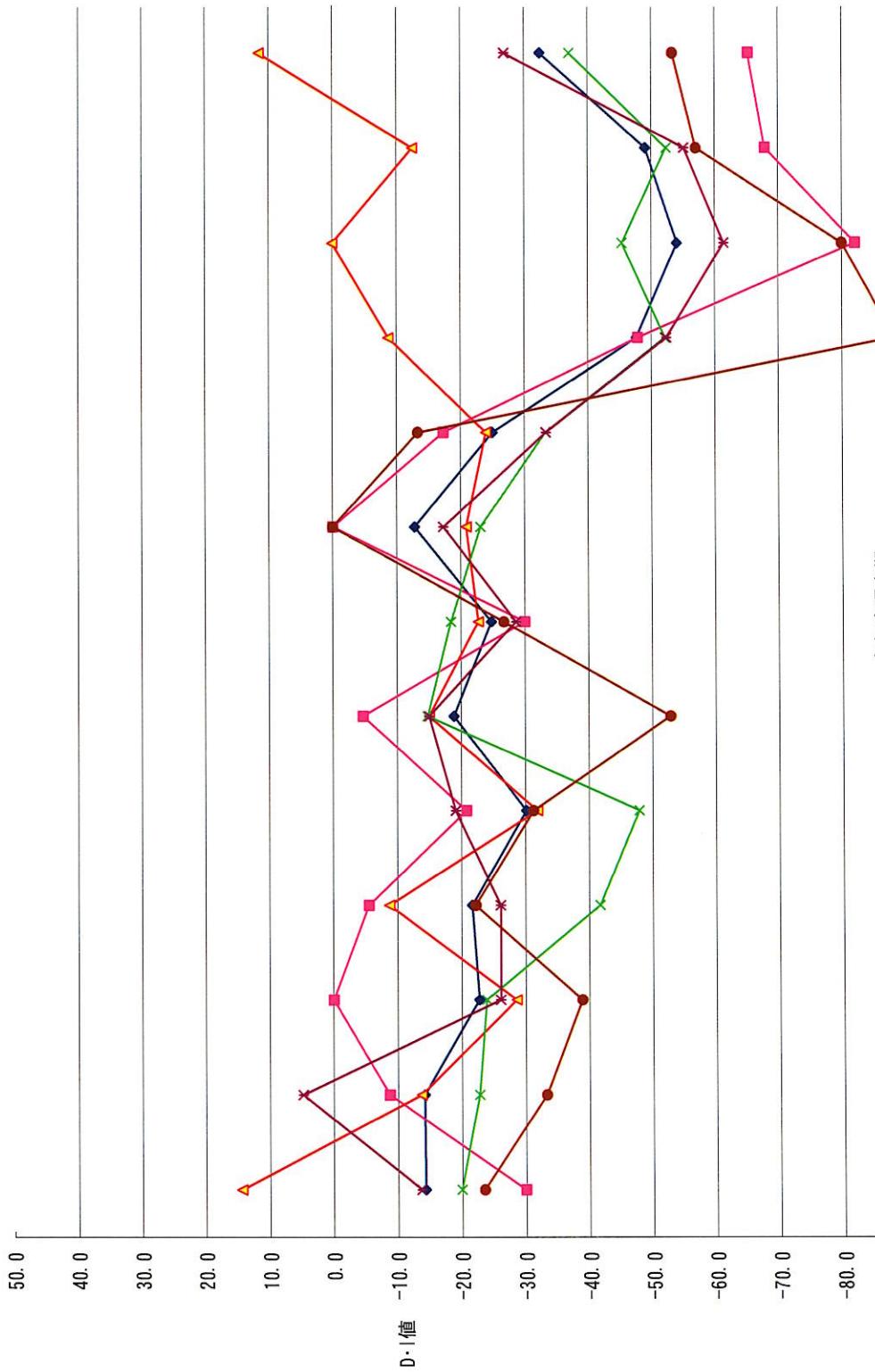
5) サービス業 **売 上 高** 前年比で「増加企業」13.3%、「減少企業」73.3%、D・I値△60.9と、前年同期(△26.7)に比べ34.2ポイントの大幅な悪化を示しました。

採 算 前年比で「好転企業」13.3%、「悪化企業」66.7%、D・I値△53.4と前年同期(△33.4)に比べ、20.0ポイントの大幅な悪化を示しました。

来期見通し 業況D・I値△73.3、売上高D・I値△79.3、資金繰りD・I値△46.7と前年同期に比べ、前年同期に比べすべてのD・I値で大幅な悪化を示しました。

各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較

◆ 全業種 ■ 製造業 ▲ 建設業 × 飲食業 * 小売業 ● サービス業



業種別 経営上の問題点

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-------|-------|-------|-------|---------|---------|
| 製造業 | 得意先減少 | 人材不足 | 諸経費増 | 人件費増 | 同業者間の競合 |
| 建設業 | 人材不足 | 諸経費増 | 人件費増 | 同業者間の競合 | 得意先減少 |
| 卸売業 | 得意先減少 | 人材不足 | 諸経費増 | 同業者間の競合 | 人件費増 |
| 小売業 | 得意先減少 | 諸経費増 | 人材不足 | 同業者間の競合 | 人件費増 |
| サービス業 | 諸経費増 | 人件費増 | 得意先減少 | 人材不足 | 同業者間の競合 |
| 合計 | 人材不足 | 得意先減少 | 諸経費増 | 人件費増 | 同業者間の競合 |

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○全業種でみると、前回調査と順位に変動はなかった。

また、業種別でみると全業種1位に変動はなかったが、製造業、卸売業、小売業とも前回4位だった「諸経費増」が3業種とも順位を上げており、新型コロナウイルス感染対策等による諸経費の増加が伺える。全業種とも新型コロナウイルス感染症により、特に飲食・サービス業をはじめ多くの業種で売上減少等大きな影響を受けていることが伺え、それぞれの業界が抱える問題は長期化しており一層深刻になっていることが伺える。

※その他及び具体的な業界の問題点と新型コロナウイルスによる影響についての記載事項

(製造) ○緊急事態宣言の期間が長引くと取引先からの注文がさらに減少するのではと心配している。

○諸会議・イベント等の中止による印刷物の減少。

(建設) ○従業員の高齢化。

○冬期時の工事が減少。

(卸売) ○加工部門の量が減少。

○市内飲食業・観光業への影響が非常に大きく、その影響を受けて売上の減少が大きい。

○飲食店の売上減少で卸売上が激減。

○社会全体の景気の落ち込みが心配。

○北見市公共工事の減少を懸念している。

○市場の縮小とそれに伴う関連業者との競合激化が予想される。

(小売) ○企業の総会・忘年会の減少および旅行・食事会の減少により外出する事がなく、新しい服を買う機会が減少している。

○コロナ対策の為の諸費用の増加と売上の減少(イベント中止等)

業況

製造業 ⇒ 好転（製麺）

悪化（木製品、印刷、菓子、農産物加工、飴、食肉、ビール製造、一般製材
建具、看板、建設用金属製品、農業機械金属、石灰製品）

建設業 ⇒ 好転（電気工事、舗装、管工事）

悪化（板金）

卸売業 ⇒ 好転（ユニフォーム、家電、事務機器）

悪化（石油製品、鉄鋼、業務用食品、米穀、製菓原材料、酒類、食肉、建築資材、
陶磁器、塗料鋼材、玩具、）

小売業 ⇒ 好転（生菓子、農業機器、自動車、家電、家具、火薬、コンビニエンスストア）

悪化（衣料品、紳士婦人服、時計・貴金属、食肉、酒、青果、眼鏡、機械工具、
靴、花卉、米穀、生鮮食品）

サービス業 ⇒ 好転（IT）

悪化（ホテル、飲食、クリーニング、理美容）

（※太字アンダーライン表示は重複該当業種）